

書 評

「職業アレルギー—新しいアレルギー診療と社会医学の原点」

中村 晋, 荒記俊一, 宇佐神 篤 編集 (永井書店)

佐藤一博

福井大学医学部環境保健学

国内の 53 名に及ぶ呼吸器アレルギー科医, 耳鼻科医, 皮膚科医らの臨床医と産業医学, 社会医学の研究者らが書いた我国では 20 数年振りに出版された職業アレルギーの専門書である。編集は, 職業性喘息をライフワークとしている大分大学前教授の中村 晋と産業保健と公衆衛生を専門とする東京大学名誉教授・独立行政法人労働安全衛生総合研究所前理事長の荒記俊一, 職業性鼻アレルギーを専門とする東海花粉研究所所長の宇佐神 篤である。いずれも職業アレルギーの大家であり, 百科事典的な面もあるが, 読んでいて非常に楽しく面白い本である。内容は, 職業アレルギーの症例報告, 疫学調査, 予防, メカニズム, 抗原除去回避の他対症療法, 減感作療法, 化学物質過敏症, 労働法令など盛りだくさんで, いずれも将来職業アレルギーのガイドラインを考える上での貴重な資料となると思われる。職業アレルギーは作業者が, 職場内に存在する感作性物質 (抗原) への曝露を繰り返すうちに感作が成立しその物質に対してアレルギー症状を発現するに至る, 単一抗原によるアレルギー疾患の唯一で貴重な人体モデルと中村は唱える。また, 職業アレルギーはいったん成立すると症状は長期になる

ことが多い。Ramazzini の時代から記載があるにも関わらず我国では労働行政, 厚生行政, 農林水産行政等の縦割り行政の狭間にあり十分な対応がなされていないと総説で総括されている。

47 の職業アレルギーの症例があるが, 対策も含めて日本の職業アレルギーのモデルとも言える群馬県のこんにゃく喘息, 広島のかきのむき身作業によるホヤ喘息, 椎茸喘息, ハウスミョウガによる皮膚障害, 蜂アレルギーなどの主な職業アレルギーは疫学調査も行なわれており, 予防方法, 治療まで述べられている。重篤なアレルギーを起こす, そばアレルギーについても 3 例の報告がある。変わったところでは, 喉が痒くなる感じが続き不眠となり近医を受診し, 献花された菊の花により咳喘息を起こすことがわかった僧侶で, 本堂の菊を造花に替えコントロール可能となった例。養蚕業者の喘息にはマブシ喘息, 絹喘息, サナギ喘息, 家蚕鱗毛喘息があるらしい。真菌, 細菌, 化学物質による職業性過敏性肺臓炎も報告されている。最も頻度が高いと思われる職業性接触皮膚炎の症例は理容師, 美容師, 歯科衛生士などの例が鮮明な写真付きで載っている。これらの多くは産業医や衛生管理者のいない中小～零細企業で起こっており, 労働衛生, 労働行政の大きな問題である。

金属, 化学物質によるものとしてはセメント, 超硬合金, イソシアネートによる症例がその分類基準とともに述べられている。近年話題になっているアレルギーでも中毒でもない化学物質過敏症 (CS) については多種化学物質過敏症 (MCS), 本態性環境不寛容状態 (IEI) との異同を含め今後の方向性が触れられている。一度本書を手にとって職業アレルギーについて考えてみる価値は充分にある。